

修士課程

立正大学大学院文学研究科の修士課程では、「人間性の根本を追究する」という理念のもと、広い視野を持ち豊かな学識を身につけた人材を育てるべく、仏教学・英米文学・社会学・史学・国文学・哲学を網羅した研究体制を構築しています。また、各専攻分野で培った高い研究能力を背景に、高度な専門性を要する職業で実践的な能力を発揮できる、社会にとって有用な人材の育成を目指しています。

1年次	2年次
4月：研究テーマの設定、指導教員の決定、研究計画書の提出	4月：研究計画書の提出
2月：研究報告書の提出	7月：修士論文題目と主査・副査の正式決定
年間：研究活動（文献や資料の収集・調査・考察と発表討議など）、授業の受講と論文指導	10月：修士論文中間報告会
	1月：修士論文の提出
	2月：口頭試問などの学位審査、研究報告書の提出
	3月：修士論文要旨の提出（大学院年報に掲載）、修了式
	年間：（～12月まで） 研究活動、授業の受講と論文指導

博士課程 ※本学での正式名称は博士後期課程

博士課程では、修士課程までの研究をより一層深めると共に博士論文を執筆し、研究者として自立した研究活動を行える能力を身につけることを目標とします。また、社会からのニーズに高い次元で応えることができる研究者、その他職業人の育成を目指します。



科目等履修生制度

立正大学大学院では、大学での高度かつ理論的な学習の必要性を感じている社会人に対して、1科目から大学教育を受ける機会を得られる「科目等履修生制度」を設けています。この制度では、受講可能な科目を1科目から学ぶことができ、履修成果に対しては単位も与えられます。

また、科目等履修生がその後、立正大学大学院の修士課程・博士後期課程に入学した場合、科目等履修生として修得した単位は、研究科委員会が認めた範囲内において修了単位数に認定されます。

受講資格 研究科委員会で審査の上、受講を許可された者。	出願期間 春期：毎年3月上旬（3日間） 秋期：毎年8月中旬（3日間）
受講期間 一度の申請による受講期間は最長1年間。	受講制限単位 文学研究科の場合、各専攻で8単位まで受講可能です。また、認定可能な修了単位数の上限も8単位となります。 ※1科目は2単位
受講科目 文学研究科が受講を認めた科目。 ただし、演習科目とゼミナールは除きます。	
受講料 1科目（半期科目） 2万8000円（2024年度実績） ※本学出身者および品川区シルバー大学受講生は2万4000円/1科目（半期科目）	

立正大学の理念と歴史

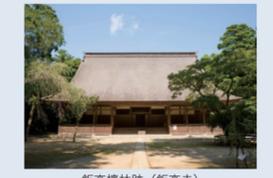
立正大学という名称は、日蓮聖人の『立正安国論』に由来します。日蓮聖人が真の仏教者として社会に貢献する生き方を実践できたのは、日本の柱・日本の眼目・日本の大船になるという若き日の誓願に基づく「三つの誓い」だったと、配流地の佐渡で著した『開目抄』に表現されています。この言葉をもとに第16代学長石橋湛山が現代風に言い換えたものが、立正大学の建学の精神です。

- 一、真実を求め至誠を捧げよう
- 一、正義を尊び邪悪を除く
- 一、平和を願い人類に尽そう

本学に学ぶ者は、この立正精神を体得し、時代に適応した知識と技術を修め、人類社会に寄与することを目標としています。

立正大学の歴史は、日蓮宗僧侶の教蔵院日生らが、学徒の教育と日蓮宗学・仏教学の研究を目的として、1580年に下総国飯高郷（現・千葉県匝瑳市）に開設した「飯高檀林」から始まります。飯高檀林は、その後長きにわたり教育・研究機関としての重要な役割を果たしました。明治時代になると、1872年に檀林を廃して芝二本榎（現・東京都港区高輪）に立正大学開校の起点となる小教院を設立。1924年には大学令により立正大学（旧制）の設立が認可され、近代的な教育機関として一層の充実を図っていくことになりました。

第二次世界大戦の折には、空襲によって一部を除いて校舎が全焼。終戦後は、1949年に学校教育法に基づく新制大学として再発足し、仏教学部と文学部を設置しました。その翌年には経済学部を創設して社会科学系にも学部を展開し、第16代学長である石橋湛山（第55代内閣総理大臣）のもとで「総合大学」への道を歩み始めました。また1951年には、立正大学で初めての大学院として文学研究科を設置しています。



お問い合わせ

立正大学大学院文学研究科
TEL：03-3492-8791 E-mail：letr@ris.ac.jp
大学院文学研究科・科目等履修生の情報は
文学研究科HPでもご確認ください
https://letters.ris.ac.jp/gs/



資料請求

立正大学入試センター
TEL：03-3492-6649 E-mail：exa@ris.ac.jp
大学院願書は立正大学HPでも
ご請求いただけます
https://admissions.ris.ac.jp/request/index.html



立正大学大学院 文学研究科
〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16
TEL：03-3492-8791 FAX：03-5487-3352
E-mail：letr@ris.ac.jp URL：http://www.ris.ac.jp/

駅から徒歩5分で通学も快適

- 大崎駅（JR山手線、湘南新宿ライン、埼京線、りんかい線）
- 五反田駅（JR山手線、都営地下鉄浅草線）
- 大崎広小路駅（東急池上線）から徒歩1分



本気で学ぶ、という選択。

立正大学大学院 文学研究科 2027年度

仏教学専攻／英米文学専攻／社会学専攻／史学専攻／国文学専攻／哲学専攻



文学研究科 研究科長
寺尾 英智

400年を超える伝統の上に立つ立正大学に、大学院文学研究科は1951年に設立されました。都心にありながら伝統に根差した落ち着きのある雰囲気の中で、じっくりと研究に取り組める環境が整っています。現在は、仏教学、英米文学、社会学、史学、国文学、哲学の6つの専攻を擁していますが、6専攻で仏教学や社会学まで含めている多様さは、他の大学院ではあまり例のない特徴です。各専攻では、主だった領域をカバーできるように、教員をバランスよく配置しています。

そして、多様な専攻を揃えるだけでなく、それぞれが連携し合っているのも特徴の一つです。院生は、興味の赴くままに連携するどの科目も履修可能で、異なる分野とも情報交換をしながら自身の研究を深めていくことができます。少人数なので教員との距離が近く、疑問があればすぐに教員に相談して、スムーズに研究を進められます。

修士課程では、研究の集大成として修士論文を執筆します。学術的な研究成果を形に残す意義は大きく、この上ない充実感を味わえます。文学研究科は、これまで社会人の院生を受け入れてきた実績があり、社会人の方のニーズに応えながら高度な学びを提供するノウハウを持っています。また、社会人院生は、私たち教員や学部から進学した若い院生にとっても刺激になる存在です。共に学ぶことができる機会を、楽しみにしています。

興味の赴くままに、深く広く研究を進められる場所です

多様な研究分野をカバーする 6つの専攻

仏教学専攻

日蓮聖人の教学や日蓮教団の歴史を学ぶ宗学コースと、仏教の思想や歴史などを学ぶ仏教学コースの2コース。院生は関心に応じて、双方の講義・演習を履修できます。

英米文学専攻

古英語から現代までの文学・語学を視野に、英文学、米文学、英語学、英語教育の各領域を広くかつ深く学びます。研究者及び専門性を要する職業にも通用する高度な能力を養います。

社会学専攻

現代社会が抱える諸問題の解決手法を導き出せる人材の養成を目指します。社会学の基礎理論から社会調査まで多様な専門科目を開講して、理論と実践を学んでいきます。

史学専攻

日本史、東洋史、西洋史、考古学の4コースがあります。各コースで専門的な研究を行うと共に、史学専攻として総合的な歴史認識の方法や見方を深く学びます。

国文学専攻

日本文学、日本語学、マイノリティの文学の各領域に加えて、漢文学、書道学などの科目も開設。新しい社会的ニーズに応えるべく、専門的で開かれた教育・研究の実践を目指します。

哲学専攻

院生たちの多様な問題意識を、現代の哲学研究の高い水準で発展させて、独自の研究領域を拓きます。多彩な科目・演習により、広く深く研究できる指導体制を整えています。

哲学専攻

人生で自分を自由にするために、必要な学問です

授業では、専門である日本の西田幾多郎やドイツのショーペンハウアー哲学のテキストをじっくり読み、討論しています。そこから、一人ひとりの関心にあう研究論文の執筆に繋がっています。哲学では、当たり前に思っていることを徹底的に考え直します。そのためには、哲学者たちの優れた思想を理解することがとても重要です。なかなか理解できないこともあります。それでも、一生懸命に向き合っていくと、自分を縛っていた固定観念から自由になる、ほっとする瞬間があります。そんな時には、哲学は、人生において自分を自由にするために、なくてはならない学問だと実感しますね。



板橋 勇仁 教授
2000年上智大学大学院を修了。2015年より現職。専門は近代の日本哲学とドイツ哲学で、両者の比較も行う。近年は身体論も展開し、多くの学会から講演依頼を受ける。「現代哲学演習」を担当。

国文学専攻

自ら能動的に学ぶことで、より深く日本文学を味わえます

授業は「日本文学演習」と「日本文学特講」を担当しています。大学院は院生それぞれが自分のテーマを持って研究する場なので、授業では何らかの形で院生の研究に資する内容を心がけています。たとえば、池に鐘が沈んでいるという「沈鐘伝説」を研究する院生がいたときには、授業でも伝承に関わる説話を取り上げました。また、日本文学専攻は時代ごとに第一線で活躍する教員がいますので、私の専門の範囲を超える場合には、他の時代や分野の教員がサポートすることも可能です。大学院では、興味のあるテーマを探究して、論文の形で残すことができます。能動的に学ぶことで、より深く日本文学を味わう体験ができると思います。



渡邊 裕美子 教授
1993年早稲田大学大学院博士後期課程を退学。2018年より現職。新古今時代を中心とする、和歌文学や中世文学のエキスパート。2011年には「新古今時代の表現方法」で角川源義賞を受賞。

史学専攻

研究に必要な古代の文献史料を読み解く力をつけていきます

「古代史演習」と「日本史特講」を担当しています。どちらも演習形式で、たとえば前者では平安時代の文献史料を使って輪番制で発表。その内容を、私が補足したり院生全員で知識を確認し合ったりしながら進めていきます。2025年度は、平安時代末期の貴族・九条兼実の日記「玉葉」をテキストとして取り上げました。この科目を学ぶことで、古代の文献史料に強くなり研究に必要な漢文の能力も飛躍的に向上します。社会経験のある方は、学部からの院生とは違った視点からその学問に触れられるのが素晴らしい点です。まず、自分が何に興味があり、どんな方向性で研究したいのかをしっかりと考えてから、ぜひ大学院にトライしてください。



佐多 芳彦 教授
1993年国学院大学大学院を修了。2015年より現職。専門は9世紀アフリカ文学で、女性作家の小説を中心とした家庭性や領域批評を研究。現在は「おば」と動物をめぐる文学表象に関心がある。

多様な知的好奇心に応えられる、各専門分野の教員たち。

哲学専攻教員一覧

- 板橋 勇仁 教授*
西田幾多郎、和辻哲郎の日本思想
- 木村 史人 准教授
実存思想
- 竹内 聖一 准教授
行為の哲学、死生学
- 武内 大 教授*
現象学、オカルティズム
- 村上 喜良 教授*
キリスト教思想、生命倫理学
- 湯浅 正彦 教授*
西洋近代哲学、特にカント、フイエヒの哲学

国文学専攻教員一覧

- 伊藤 善隆 教授*
近世文学、俳文学
- 白岩 広行 准教授*
日本語学
- 中川 諭 教授*
中国古典文学
- 葉名尻 竜一 教授*
近現代文学
- 山中 悠希 教授*
中世文学
- 野沢 佳美 教授*
政治社会学、社会運動論、身体論
- 長谷川 まゆ帆 教授*
フランス近世史

史学専攻教員一覧

- 芦部 彰 准教授*
ドイツ近現代史
- 石山 秀和 教授*
日本近現代史
- 岩本 篤志 教授*
東アジア古代史・内陸アジア史
- 佐多 芳彦 教授*
日本古代史・有職故実
- 時枝 務 教授*
日本考古学、とくに宗教考古学、修験道考古学
- 野沢 佳美 教授*
中国近世史、日中文化交流史
- 長谷川 まゆ帆 教授*
フランス近世史
- 本間 岳人 准教授
歴史考古学・石造物
- 真田 美佐 教授*
日本近現代史

社会学専攻

生と死の経験を手がかりに社会を問い直す文化社会学へ

担当は「現代社会論」。文化社会学の視点から「生と死」をめぐる関心を大切にしながら、各自の研究テーマに応じた文学作品や研究書を取り上げていきます。そのため、扱う文献は多様です。ある年度には、19世紀の地方色文学論、20世紀アメリカ南部の「ブアホワイト」文学と階級論、現代のニュー・ブラックホラー作品などを読みました。こうした幅広い文献に向き合うさいに心がけているのは、テキストの一文一文を丁寧に精読し、批評的・歴史的・思想的背景にも目を配りながら、議論を重ねていくこと。その背景にある社会や文化に目を向け、語れなかった経験や断絶した関係は、こうした議論に新たな広がりをもたらしてくれます。院生がともに学び合いながら、自身の研究の可能性を広げていくことを期待しています。



鈴木 健之 教授
1995年法政大学大学院博士後期課程を修了。2019年より現職。専門は社会学理論・文化社会学。ト・バーンズ研究を中心に、生と死、語りと沈黙、関係修復を主題に研究と教育を行っている。

英米文学専攻

精読と対話で英米文学研究の可能性を広げます

担当科目は「英米文学研究方法論」です。受講生一人ひとりの関心を大切にしながら、各自の研究テーマに応じた文学作品や研究書を取り上げていきます。そのため、扱う文献は多様です。ある年度には、19世紀の地方色文学論、20世紀アメリカ南部の「ブアホワイト」文学と階級論、現代のニュー・ブラックホラー作品などを読みました。こうした幅広い文献に向き合うさいに心がけているのは、テキストの一文一文を丁寧に精読し、批評的・歴史的・思想的背景にも目を配りながら、議論を重ねていくこと。その背景にある社会や文化に目を向け、語れなかった経験や断絶した関係は、こうした議論に新たな広がりをもたらしてくれます。院生がともに学び合いながら、自身の研究の可能性を広げていくことを期待しています。



増田 久美子 教授
2001年一橋大学大学院博士課程を退学。2017年より現職。専門は19世紀アメリカ文学で、女性作家の小説を中心とした家庭性や領域批評を研究。現在は「おば」と動物をめぐる文学表象に関心がある。

仏教学専攻

自らの生き方と心の整え方を学べるのが仏教学の魅力です

仏教学専攻には宗学と仏教学という二つの柱があります。私は仏教学分野を担当しています。生きていく上で大切なものを身に付けるといって、言語や表現に関わる仕事に進みたいと考えています。正直これまで学業に専念してきたため社会に出る実感はまだ薄いのですが、文学研究で身につけた読解力や論理的思考は幅広い場面で必ず役立ち、さまざまな仕事の土台になると感じています。今後は大学院で学んだことを社会に役立てながら、日本文学や日本文化の魅力を広げていきたいと思っています。



蓑輪 顕量 教授
2001年生まれ。2019年より母国の大学日本語専攻にて、日本語および日本文化を学ぶ。2023年、学部4年次の海外研修として来日し、日本語学校に在籍。2024年、立正大学大学院文学研究科国文学専攻に入学。

文学研究科で学ぶ留学生院生からのメッセージ

を体系的に深められる貴重な機会であり、毎回の学びを大切にしています。

大学院での学びは、人間力の向上につながる
修了後は大学院で培った専門知識や分析力を生かして、言語や表現に関わる仕事に進みたいと考えています。正直これまで学業に専念してきたため社会に出る実感はまだ薄いのですが、文学研究で身につけた読解力や論理的思考は幅広い場面で必ず役立ち、さまざまな仕事の土台になると感じています。今後は大学院で学んだことを社会に役立てながら、日本文学や日本文化の魅力を広げていきたいと思っています。



テウカイさん
2001年生まれ。2019年より母国の大学日本語専攻にて、日本語および日本文化を学ぶ。2023年、学部4年次の海外研修として来日し、日本語学校に在籍。2024年、立正大学大学院文学研究科国文学専攻に入学。



私 は以前から日本文化に強い関心を抱いており、母国の大学でも迷わず日本語を専攻しました。そこで日本文学が持つ繊細な感性や多層的な表現に深く魅了され「いつかは日本で本場の環境の中で研究したい」と強く思うようになりました。その思いを実現するため、体系的に研究できる大学院への進学を志しました。

立正大学大学院文学研究科を選んだ理由は、まず日本文学研究の伝統と充実した指導体制に魅力を感じたこと、そして関心領域に近い研究を行う教授陣が所属していることです。教員と学生が互いに学問を磨き合う環境の中で、私自身も日本文学を現代に生かす視点を育てたいと考えています。

特 に印象に残っている講義が、葉名尻竜一先生の「日本文学演習」と、中川諭先生の「漢文学特講」です。葉名尻先生の授業では近現代小説に加えて映画やアニメといった大衆文化も学術的に扱って新鮮な学びがありました。そのおかげで多角的な視点を獲得することができました。さらに漢文学は自国文学への理解

文学研究の未来を日本で創る

たものと読み合わせ、その内容を確認していくもので、他には江戸期の寺院縁起の文書である、『法華霊場記』や、日蓮聖人にまつわる伝記本の読み合わせなども行っています。

人が「生きていく」ためのサポートを

私が現在勤めている会社は、重度訪問介護事業を社業としてしています。ターミナルケアの観点から、いづれはスピリチュアルケア師、あるいは臨床宗教師の資格取得も視野に入れているので、現場での実践課程の経験を活かし、本学在籍中に僧籍取得要件を満たしていきたいと考えています。

社 会人の方は、科目を履修するために、時間を確保することがなにより一番の問題ではないでしょうか。私 の場合は仕事との兼ね合いもあり、時間の猶予を踏まえて4年間の「長期履修制度」を選択しました。大学院への進学には、各研究科が主催する事前説明会が開催されていますので、まず相談をしてみることをお勧めします。是非一歩、踏み出してほしいかがでしょうか！



山名 隆年さん
1968年生まれ。高校卒業後、海上自衛隊に入隊。退職後、仮設電気工事業に従事。2011年介護職員に転職後、2013年3月、重度訪問介護事業を起業し、現在に至る。2024年立正大学大学院文学研究科(仏教学専攻修士課程)に入学。

社会人長期履修生

探究心が人生を面白くする

私 は17歳の時に日蓮仏教に入信し、信仰生活に明け暮れる日々を過ごしていました。歳を重ね、「法華コモンズ仏教学林」という有志の勉強会でスタッフをしていた際、立正大学の三輪是法先生と御縁があり、まず科目履修生から、更に4年間の学部生を経て、卒業論文の指導を担当していただきました。三輪先生より「大学院に進み、さらに知見を広げてみてはどうか」とのアドバイスをいただき進学を決めました。大学院では日蓮聖人の教学思想を学びなおすため、天台教学をpushしながら自身の研究課題でもある「日蓮聖人の本尊観」を探究していきたいと思っています。

大 学院での学びの中心は、学部生の時から受講している「摩訶止観」の輪読です。漢文をスラスラと読むことができない私は、講義のために準備するレジュメの作成に奮闘する日々ですが、講義の内容は少しずつ理解が進んでいると感じています。好きな授業は学部生の頃から先取履修制度で受講している「宗学演習」です。この科目は日蓮聖人自筆の御遺文を活字化され

多忙な大学院生を支援する長期履修制度

長期履修制度とは、所定の在学期限では時間的に単位取得が困難な方や、論文作成に時間を要する方のための制度です。在学期限を修士課程は最長4年、博士後期課程は最長6年まで延長することができます。自分のペースで研究に取り組むことができます。授業料は、所定の在学期限分の総額を、長期履修年度による履修年限で分割した金額を1年分で納入するので、単年度での経済的負担を軽減できます。

本制度の申請および期間変更（延長・短縮）は、修士課程および博士後期課程それぞれの課程ごとに行うことができます。入学前に長期履修の申請を行った場合、入学後に期間変更を希望する際は、所定の申請期間および申請方法により、在学中1回に限り申請することができます。また、入学後（在学中）も所定の手続きにより、修士課程1年次、博士後期課程1・2年次を対象として、在学中1回に限り申請および期間変更を行うことができます。ただし、在学中に本制度の申請を行い、適用を受けた者の期間変更は認められません。

※外国人留学生（在留資格が「留学」の方）は、長期履修制度を利用できません。
※在学中に長期履修期間の延長をする場合は、延長後の在学期限に応じた授業料の分割は行いません。授業料は延長前の在学期限に応じた分割での納入となります。
※制度の詳細につきましては、学生募集要項をご覧ください。

修士課程モデルケース	
通常履修	長期履修
1年 (68.6万円)	1年 (34.3万円)
2年 (68.6万円)	2年 (34.3万円)
	3年 (34.3万円)
	4年 (34.3万円)

3年または4年の修業年限を申請し、授業料は分割して納入。

科目等履修生制度で受講できる科目例（一部）

- 仏教学専攻
 - 宗学特講 原慎定／宗教の非視座とした日蓮教学
 - 仏教文化演習 秋田貞貴／仏教美術の保存修復の意義と可能性
- 英米文学専攻
 - 米文学演習 今井亮一／アメリカ文学の精読
 - 英語学研究方法論 井川壽子／言語現象の観察と分析
- 社会学専攻
 - 理論社会学講義 田嶋和久／社会学は「いま」をどのように語ってきたか
 - 環境社会学演習 堀田恭子／環境リスク社会の研究
- 史学専攻
 - 西洋史演習 長谷川まゆ帆／近代フランス史料の講読
 - 日本古代史演習 佐多芳彦／鎌倉時代の「玉葉」の講読
- 国文学専攻
 - 日本文学演習 葉名尻竜一／日本近現代文学の作品をテーマで分析
 - 日本文学演習 伊藤善隆／江戸時代の文学作品の読解と版本書誌学
- 哲学専攻
 - 現代哲学演習 板橋勇仁／「弁証法的一般者としての世界」の講読と検討
 - 古代哲学演習 田坂さつき／死の自己決定権に関する文獻の読解・討論

過去の修士課程修了生の研究テーマ

- 仏教学専攻
 - 「近代における日蓮系在家仏教の展開」
 - 「瑜伽師地論戒品の文献学的研究」
- 英米文学専攻
 - 「Patriarchy in Pride and Prejudice: A Reflection on Gender Roles」
 - 「英語における形容詞句（節）の文法の考察」
- 社会学専攻
 - 「現代社会における「個人化」としての「異類他者」の問い込み」
 - 「排除と包摂の社会的考察」
- 史学専攻
 - 「加賀藩江戸勤番武士の研究」
 - 「ラファエル前派とウィリアム・ホルマン・ vant」
- 国文学専攻
 - 「琉球歌謡の韻律」
 - 「万葉集の挽歌表現研究」
- 哲学専攻
 - 「唯一実在の分化発現と自己の自由」
 - 「死と存在をめぐる」

- 秋田 貞貴 教授*
文化財修復(彫刻)
- 安中 尚史 教授*
日蓮教団史、日本仏教史
- 庄司 史生 准教授
宗教社会学、大衆經典形史
- 手島 一真 教授*
中国仏教社会史、中国仏教文化史
- 寺尾 康 教授*
日蓮教団史、日本仏教史
- 戸田 裕久 教授*
インド哲学、インド思想史
- 原 慎定 教授*
日蓮教学
- 蓑輪 顕量 教授*
仏教思想史、日本法律史、仏教修徳論
- 三輪 是法 教授*
日蓮教学

仏教学専攻教員一覧

- 井川 壽子 教授*
英語学、英語語文論、意味論、言語対照
- 伊澤 高志 准教授
イギリス文学
- 今井 亮一 准教授
アメリカ文学、世界文学、比較文学
- 大野 龍浩 教授*
イギリス文学・イギリス小説
- 寺尾 康 教授*
第二言語習得・応用言語学
- 中井 理香 准教授
イギリス文学・文化
- 増田 久美子 教授*
アメリカ文学

英米文学専攻教員一覧

- 浅岡 隆裕 教授*
メディア・コミュニケーション論、文化社会学
- 石川 由香里 教授*
イギリス文学
- 小宮 信夫 教授*
犯罪社会学
- 鈴木 健之 教授*
社会学理論、社会学史
- 武井 順介 准教授
宗教学社会学
- 田嶋 和久 教授
政治社会学、社会運動論、身体論
- 徳山 喜雄 教授*
ジャーナリズム論、写真論
- 堀田 恭子 教授*
環境社会学

社会学専攻教員一覧

- 石川 由香里 教授*
イギリス文学
- 小宮 信夫 教授*
犯罪社会学
- 鈴木 健之 教授*
社会学理論、社会学史
- 武井 順介 准教授
宗教学社会学
- 田嶋 和久 教授
政治社会学、社会運動論、身体論
- 徳山 喜雄 教授*
ジャーナリズム論、写真論
- 堀田 恭子 教授*
環境社会学